

# 災害時の非常持ち出し品・備蓄品を準備しよう ～「もしも」を「いつも」へ～

いつ起こるか予測できない大規模災害に備えて、日ごろから準備しておくことが大切です。防災のための備蓄は、日常生活とは分けて考えがちですが、普段の生活でいざという時を少し意識してみましょう。

## 非常持ち出し品と備蓄品の違いって何？

どちらも“非常時に備えるもの”ですが、「非常持ち出し品」は急いで避難しなければならぬ時に持ち出す最小限のものであるのに対して、「備蓄品」は在宅で避難生活を送るために必要な日常生活品を備蓄しておく日常備蓄のことです。

## 準備のポイントは？

- 非常持ち出し品は最小限にまとめ、リュックサックなどに入れておく
- 家庭の状況に合わせて必要なものを用意しておく
- 備蓄する飲食物は最低3日分、できれば1週間分を確保しておく  
(飲料水の目安は1人1日3リットル)



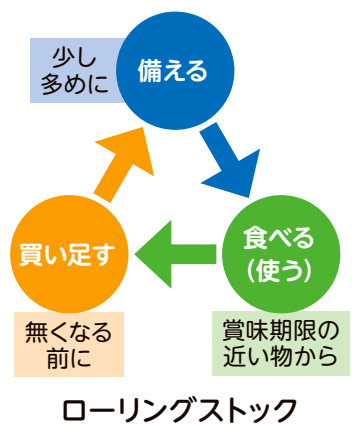
### これがあると便利！

- ビニール袋 (備蓄品をそれぞれ袋に入れてまとめておくとかさばらない)
- カセットコンロ、ボンベ など

## ローリングストック(回転備蓄)で無理のない備蓄を！

いざという時に備えて、普段使用している食料品や生活用品を少し多めに購入し、日常的に消費しながら補充する方法です。

このようなローリングストック(回転備蓄)を心掛けると常に新しい非常食が備蓄され、普段から食べているものを災害時にも食べられます。防災のために特別な準備をするのではなく、可能な限り日ごろの生活の中に組み込んで、普段からよく使っている物でまかなうのが理想的です。



さかのぼること約1か月前。テレビ速報に、多くのかたが衝撃を受けました。「3月2日から全国の小中高を対象に休校を要請」新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、突如発表された臨時休校でした。これを受け、対象のお子さんがいる保護者は大混乱です。翌日、テレビに映し出されたのは、そんな困っている保護者の姿でした。ここで一つ思い返してみてください。これらの報道で取り上げられていた多くは、「困っている母親」の姿ではなかったのでしょうか？

確かに、報道のとおり、父親に比べ母親への影響が大きかったのかもかもしれません。しかし、仕事を休んだ父親や、テレワークに切り替え、子守と仕事を両立させた父親もたくさんいます。メディアは「休校になる→世話をするのは母

親↓仕事を休むのは母親↓困るのは母親」の構図を取り上げ、多くの母親たちの声をメインに報道を行いました。

このことは、日本社会に「家事・育児は女性が行うもの」という固定的な性別役割分担意識が根深く残っているということを浮き彫りにしました。

また同時に、わたしたちはこれらの報道を見た子どもたちの無意識の中に、「学校を休むと世話をするのはお母さん」という意識ができてしまうことを防がなければいけません。

突然の臨時休校は、わたしたちが今後乗り越えるべき問題をたくさん教えてくれたように思います。



一人一人が備えてこ！  
**防災力UP！鳥羽**

総務課防災危機管理室  
☎ (25) 1118

vol.82

イコールパートナーシップ  
Vol.137

お世話をするのは…？

市民課人権・市民交流係  
☎ (25) 1126